

例会日：毎週木曜日 12 時 30 分
例会場：岐阜県郡上市八幡町小野 67(八幡建設 2F)
TEL (0575) 67-0314 FAX (0575) 67-0005
E-mail: rc-8man@abeam.ocn.ne.jp
URL: http://gujohachiman-rc.com/

会 長 : 水上成樹
副 会 長 : 平岩憲政
幹 事 : 野田三津雄
公共イメージ : 西川 昇
会報担当者 : 大川達也

2022 年度国際ロータリー会長：ジェニファー・ジョーンズ(ウイザー・ローズランド・ロータリークラブ・カナダ)
2022 年度国際ロータリーテーマ：IMAZINE ROTARY(想像してください。私たちがベストを尽くせる世界を)

<本日のプログラム>

第 2793 回 令和 4 年 11 月 10 日 第 2 木曜日
会員卓話 永瀬和郎会員
坂本 仁会員

<次回の予定>

第 2794 回 令和 4 年 11 月 18 日 第 3 金曜日
美濃・郡上長良川 RC との 3 クラブ合同例会
美濃市：緑風荘にて

<前回の記録>

第 2791 回 令和 4 年 10 月 27 日 木曜日
会員卓話

司 会 進 行	山下友幸親睦委員長
点 鐘	水上成樹会長
ソ ン グ	郡上八幡ロータリーの歌
出 席 報 告	長尾信幸出席担当責任者

会員数	出席	補正	出席合計	出席率
34 名	22 名	7 名	29 名	85.3%

ニコBOX 可児一彦ニコBOX 担当責任者

- ・岩出さん、卓話宜しくお願ひします。 水上成樹
- ・岩出さん、本日は卓話ご苦勞様です。宜しくお願ひします。 野田三津雄
- ・卓話宜しくお願ひします。 岩出明喜
- ・岩出君 卓話楽しみにしています。
平岩憲政・廣瀬泰輔・岩尾 誠・可児一彦
松本英樹・松森 薫・三原慎也・森下 光
村井裕孝・村土時男・長尾信幸・永瀬和郎
西川 昇・西村 肇・小笠原正道・酒井智義
坂本 仁・竹内巧治・山下友幸

幹事報告 野田三津雄幹事

- ・T-LIFE パートナース(株)ロータリー室より 2023 年国際ロータリー一年次大会メルボルン大会参加旅行募集案内
 - ・美濃市教育委員会より「第 37 回中濃駅伝競走大会」にかかる協賛金募集のお願ひ
 - ・郡上長良川 RC より例会変更のお知らせ
- <拝受>
- ・郡上長良川 RC より週報

委員会報告

R 財団米山奨学委員長 西村 肇
・ポリオ募金活動の連絡
山下友幸親睦委員長
・3 クラブ合同例会について

会長の時間 水上成樹会長



皆さん、こんにちは。先日の 22、23 日に高橋ガバナーのもと、3 年ぶりに 2630 地区の地区大会が行われました。参加して頂いた方、ありがとうございました。テーマは「つながろう！環境を 人を 心を in GIFU」で、長良川国際会議場にて行われました。3 年ぶりということで、ガバナーも大変喜んでみえましたし、歴代のできなかったパストガバナーも大変喜んでみえました。3 年前と言いますと、村土さんが会長で私が幹事の時でした。その時は三重に行かせて頂いて、それ以来地区大会はコロナによって中止になっておりました。今回 3 年ぶりにできたということで、大変盛り上がりおりました。1 日目の 22 日にも出席させて頂きました。RI 会長代理の安間みち子さん、この方は浜松ハーモニー RC の所属で、3 年ほど前にはガバナーも経験されたそうですが、この方が地区大会に出席されておりました。来賓に、韓国の 3600 地区の方とタイの 3330 地区のガバナーやパストガバナーなども出席されておりました。少しですが写真を撮ってきましたので見て下さい。これは各クラブの活動を、一部ですが写したものです。東海北陸道グループという看板の後ろに座っていました。





これがオープニングセレモニーで、かやの木学園の「響」というダンスを、和太鼓と共に披露されましたが、大変活気のある和太鼓とダンスでした。その後、元RI研修リーダーの鈴木一作さんという方が「What is Rotary?」という題名で講演をされました。この講演の内容ですが、ロータリーとは何かということで、「親睦と学びを基盤に、立派なロータリアンを育てながら、価値ある奉仕を通じて、社会に貢献する世界的な団体である」と冒頭で言われました。鈴木さんは何が一番大事かということで、親睦が一番大事だと言われました。但し、親睦というのはフレンドシップではなくて、フォローシップだということと言われました。このフォローシップがどういうことかということ、本来なら出会えない異業種の会員が、ロータリーの志を共にする仲間となって睦み集う「親睦の喜び」、この志を共にする仲間というのがフォローシップということでした。仕事やロータリアンとしての在り方を「学ぶ喜び」、あらゆる機会に社会に貢献する「奉仕の喜び」、仕事やロータリアンとしての在り方を「学ぶ喜び」、あらゆる機会に社会に貢献する「奉仕の喜び」。それらを楽しいと思う少年少女のような「純真さ」。自らを「我、道義の職業人たらん」と律し、自らを多少なりとも立派な人間であると思う「自尊心」。そして成功や飛躍の「チャンス」、素晴らしい「感動」。ロータリーは、人生を豊かにする、と言われて終わりました。本当にいい講演でした。そしてその後、に晩餐会が行われ、最後に釧田パストガバナーが閉められて1日目が終わりました。2日目はクラブから10名で参加させて頂き、講演を聴きました。この講演の講師は「幸せ経済社会研究所」所長の枝廣淳子さんという方で、「地域経済とレジリエンス」という題名で講演をされました。講演の内容は、地域の商店の復活についてのアドバイスで

した。地域の経済を、人と人の繋がりを大切にしながら対応して再構築していくにはどうしたらいいのか、ということについてお話をされました。大変勉強になる講演でした。地区大会が盛大に行われましたことをご報告して終わります。ありがとうございました。

会 員 卓 話 岩出明喜会員



皆さん、こんにちは。ニコBOXの投函ありがとうございます。今日の卓話は、お配りした資料に沿ってお話します。

今年は3年ぶりにねぶたへ行きました。その途中で平泉へ行って金色堂を見たのと、7月か8月頃、鋼造虚空蔵菩薩座像が新聞に載ったので、どういものか石徹白に見に行きました。そこで話を聞きましたがあまり分からなかったので、ケーブルテレビの稲葉さんに聞きに行きました。色々説明して頂きましたが、義経の話が出てきたりして、話を整理しようとしたのですがなかなか難しく大変で、年号ごとに整理しないと分からないということで年表にしてみました。少し間違いもあるかもしれませんが、書いてあることは本当ですので宜しくお願いします。

今テレビで鎌倉殿がやっていますが、頼朝と義経は異母兄弟で殺し合いをしたということです。平家物語の中に「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり」とありますが、諸行無常とあるくらいなので、平安時代は兄弟や親子で争ったりすることが普通にある、そういう時代でした。その他に、義朝の長男として生まれたのが義平で、それがどういう関りをしたか後から出てきます。平泉にある金色堂の中に安置してあったというのが、藤原基衡、秀衡、泰衡です。秀衡と泰衡は義経との間に出てくる名前です。

それでは年表の方からお話します。

☆源氏と平家の戦い年表☆

西 暦	主 な 出 来 事
1159年(平治元年)	平治の乱 平清盛らが源義朝を破り、後に源義平(義朝の長男)も京で討たれた。
1180年(治承4年)	源頼朝が伊豆で平家打倒の挙兵する。源義仲(木曾義仲)も信濃で挙兵する。
1183年(寿永2年)	木曾義仲が平家を破り西国へ追い払い入京する。源頼朝が義仲を追討する。
1184年(元暦元年)	一ノ谷の戦いで源義経が平氏を破る。六つ城主猪俣小平六が一緒に戦い武勲。三草山の戦いで源義経が平氏を破る。田代冠者信綱と一緒に戦い武勲。
1185年(文治元年)	屋島の戦い、壇ノ浦の戦いで源義経は平家を破り、平家を滅亡させた。
1185年(文治元年)	源頼朝は源義経追討の院宣を受け、義経討伐を開始する
1187年(文治3年)	源義経は比叡山より石徹白を経由して、藤原秀衡の居城奥州平泉に着く
1189年(文治5年)	源義経が藤原泰衡(秀衡の息子)に自害させられる 奥州合戦で源頼朝が藤原泰衡を追討して奥州を平定する。藤原氏が滅亡した。

1159年に平治の乱があり、これは平家と源氏の戦いで、源氏が敗れました。この時に義朝は伊豆へ流されて、義平は昔の和泉村に逃げてきたということです。1180年には、伊豆へ逃げていた頼朝が

挙兵し、平家を倒すということで、木曾にいた義仲も信濃で挙兵しました。1183年に義仲が平家を破って西国へ追い払い、京都へ入りました。でも、義仲は平家を破ったのは自分だと、かなり力んでやりたい放題だったため、源頼朝が朝廷に話して追討を認めてもらい討ったということです。1184年に一ノ谷の戦いというのがあるのですが、ここで郡上から出ている猪俣小平六が義経と一緒に戦いました。この頃から義経が力を付けてきて、平家を滅ぼすために色々な所で戦いました。三草山の戦いでは、義経が田代冠者信綱と一緒に戦い、平家を破りました。この田代という人は、郡上の大和にあるタシロ工業さんの先祖であるということが古文書の中に書かれているようです。平家物語絵巻の中にも、田代冠者信綱と猪俣小平六の活躍の様子が載っています。1185年には屋島の戦い、壇ノ浦の戦いがあり、義経が平家を滅亡させました。平治の乱の時は、平家が源氏を散らばらせてお寺のお坊さんにしたりとかその程度でしたが、源氏は平家を全滅させました。同じ年、頼朝は自分の身の危険を感じたため、朝廷から義経追討の院宣を受けて義経の討伐を開始しました。義経は頼朝に、自分を討たないで欲しいとお願いしようとしたのですが、頼朝は自分に義経を近づかせませんでした。次の年の4月に、困った義経は比叡山へ行き、そこのお寺で匿ってもらいました。頼朝は義経の行方を探しましたが見つからず、11月には行方不明になっていたということです。翌年の3月には、奥州の藤原秀衡を頼り平泉に着いていました。そして、どうもこの時に郡上に寄ったのではないかとされています。それについて書いてあるのが、資料の「源義経の逃避行の空白の40日間」です。

源義経の逃避行(経路)の空白の四十日間



源平合戦の一ノ谷の戦い 源義経の嫡越武蔵七党の猪俣小平六は関東を代表する鎌倉御家人で、源義経と数々の合戦で武功をあげている。



平治の乱で敗れた源義平が朝日穴馬の愛娘に遺した青葉の笛

源頼朝の討伐軍により西国に逃れていた源義経は1186年4月に比叡山延暦寺に匿われていたが11月には行方不明となっている。しかし翌年の3月には奥州の藤原秀衡を頼り逃避行の末、平泉に着いていた。逃避行する源義経一行は、冬の石徹白に滞在し、春を待って平泉へ行ったという石徹白隠匿説が考えられる。以下の○印が隠匿、逃避経路の根拠。○この時期に奥州藤原氏が石徹白の白山中居神社に虚空菩薩像を寄っていること。
 ○白山中宮長滝寺(長滝白山神社)が比叡山延暦寺の別院であったこと。
 ○白鳥町牛道の六ツ城址の城主は猪俣小平六で、源平合戦で源義経と一ノ谷の戦いで一緒に戦っている。田代冠者信綱は大和町の田代姓の子孫とされている。
 ○福井県大野市朝日穴馬に、平治の乱で敗れなくなった源義平の愛娘があり、青葉の笛を遺している。
 ○石徹白に白山中居神社を守っている社家としての上村の子孫(奥州武士団)が残っている。

義経が郡上に寄ったとされる根拠として、秀衡が石徹白に仏像を送っています。その仏像を送るにあたっては、偵察をしながら何か月もかけて太平洋側を回り石徹白に持ってきたということです。12人ほどで仏像を持ってきたらしいのですが、その中に上杉という人と上村という人がいました。この二人も一旦は平泉へ行きましたが、仏像の守りをして欲しいということで、上村という人が石徹白に住み着いたということです。今でも上村という人が管理をしています。以前は石徹白の神社の中に安置してありましたが、明治になってから

神社と仏像が隔離され、今は別々に祀ってあるということです。資料にも書いてありますが、長滝の白山中宮長滝寺が比叡山延暦寺の別院であったことから、義経も関りがあったのではないかと思います。また、猪俣小平六という人も一ノ谷の戦いでの功績として土地を与えられ、六ノ里に山があるのですが、その山にお城があったということです。お寺の名前を忘れましたが、お城にあったお墓を持ってきて、今はそのお寺が管理をしています。田代冠者信綱も義経と色々な関りを持っていて、合戦でも功績をあげたようです。福井県大野市の穴馬には源義平の娘がいて、義経はその娘に「青葉の笛」を遺しています。その笛は穴馬の資料館に現存しています。

義経の勢力が大きくなり過ぎたため、頼朝はそれが気に入らず、藤原泰衡に義経を討つよう命じました。泰衡に攻められた義経は自害しました。泰衡も最後は鎌倉から追手が来て殺されてしまいました。その時に討たれた首だけが、金色堂の中に他の3人の兄達と一緒に納められているということです。

大まかですが、以上が藤原と義経と郡上との関りになります。石徹白の虚空蔵菩薩ですが、平泉の方ではそれを送ったということは分からなくて、20年くらい前にやっと国指定の重要文化財になりました。今はコンクリートのお社の中に入れてあります。この前行った時は、管理している上村さんが鍵を開けてくれました。きちんと管理しており綺麗な像でした。今ちょうどテレビで鎌倉殿の話がやっていますので、そういうことも含めて皆さんも郡上にも凄い武将がいたんだなと思って下さい。ありがとうございました。

奥州藤原氏と白山中居神社の関係



国指定重要文化財 銅造虚空蔵菩薩座像 石徹白 大師講

平安時代末期、奥州平泉に強大な勢力を築いていた藤原秀衡(3代目)は、京より逃れてきた若い源義経を匿い育てていた。後に源頼朝の東国支配も及ばない有力豪族となっていた。藤原秀衡は平家討伐のために源義経を奥州から出陣させ、義経は総大将として、西国で数々の源平合戦に勝利して平家を滅亡させた。

しかし義経は後に兄である源頼朝と対立していき追討され、奥州で自害した悲運の武将となった。

藤原秀衡は源頼朝の追討を受けた義経を再度匿うことで頼朝と対立していき、後に頼朝の奥州征伐により、奥州藤原氏は藤原泰衡の四代で滅ぼされた。

元暦二年(1185年) 奥州藤原秀衡が武士団(上杉・上村十二人集)に白山中居神社に銅造虚空蔵菩薩座像を寄進した。現在も石徹白には上村姓の子孫が中居神社の社家として残っている。

藤原秀衡のこの菩薩座像の寄進目的は、鎌倉を通り東山・東海道を経て運搬されており、源頼朝の鎌倉の偵察を兼ねたものであった